

■2016.09.14 「第三次循環基本計画 第3回点検ヒアリング」

「持続可能な未来の共創めざして」

2Rと質の高いリサイクル&地域循環圏に向けた
連携の可能性～市民・NGOの視点から

崎田裕子

ジャーナリスト・環境カウンセラー

NPO法人 持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長

アジア3R推進市民ネットワーク 共同代表

これまでの取り組み

＜理念＞くらし・地域の環境負荷に 市民・NGOとして責任を持ち
持続可能な社会づくりに貢献したい

＜具体化のポイント＞ 多様な主体の「連携」で「共創」する

くらしの
ごみとCO2

くらしの
化学物質

高レベル
放射性廃棄物

福島の放射
性物質汚染

市民・企業・行政との
パートナーシップで実施

全国各地で
学び合う場づくり

専門家・
NGO・行政
の情報共有

3Rめざすマルチステークホル
ダー会議(企業・行政と連携)

アジア3R 推進市民
ネットワーク(環境省と連携)

「高レベル放射性廃棄物
の地層処分」に関する
地域ワークショップ
(資源エネ庁事業)

「環境回復
勉強会」

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットとは

1996年からごみ問題解決へパートナーシップを育み
2001年以降全国の個性ある地域環境活動を応援する
「市民がつくる環境のまち“元気大賞”」表彰事業実施

■地域の環境活動リーダーと共に学び合う全国ネットワーク



マルチステークホルダー会議（2013～2015） 「連携」で「共創」する循環型社会高度化に向けて

～地球環境基金助成事業として実施～

目的：

世界の天然資源需給逼迫や、東日本大震災を契機とした資源・エネルギー自立型地域づくりの潮流など、日本がめざす循環型社会の姿は新たな段階に入っている。

持続可能な社会実現に向け、資源や地域性に応じた地域循環圏づくりと各個別リサイクル制度見直しの熟議の場として、自治体・リサイクル事業者・小売店・メーカー・専門家・消費者・NPO等（省庁はオブザーバー参加）を交えて実施。

個別テーマ：PETボトルの店頭回収・食品ロス削減・環境配慮商品と消費行動・アンケート報告等

EUの循環政策視察と

「個別リサイクル制度見直しに向けたマルチステークホルダー会議」開催と政策提案

（容器包装・食品・家電・自動車）



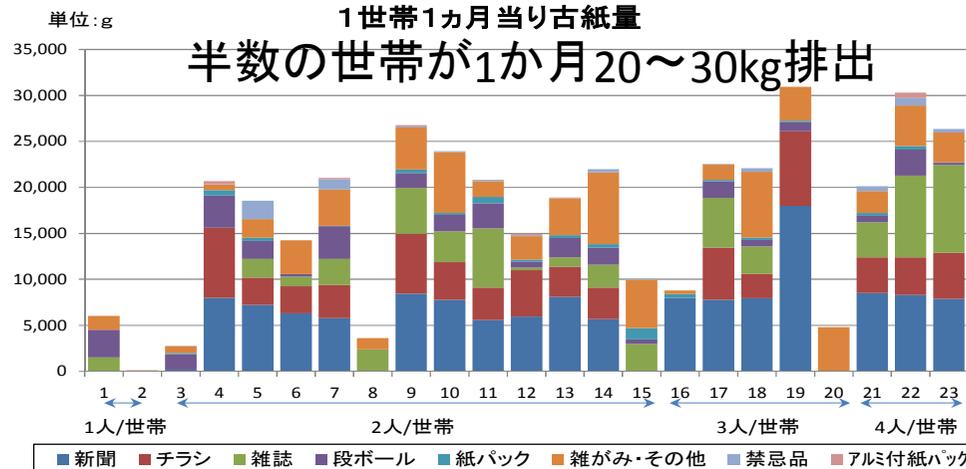


ロンドン五輪の持続可能性対策 視察ふまえ
 「みんなで創るオリンピック・パラリンピック」 環境新聞社
 2020年とその先を見すえ、「連携」して歩みたい
 「地域循環共生圏」への道 (2014~)

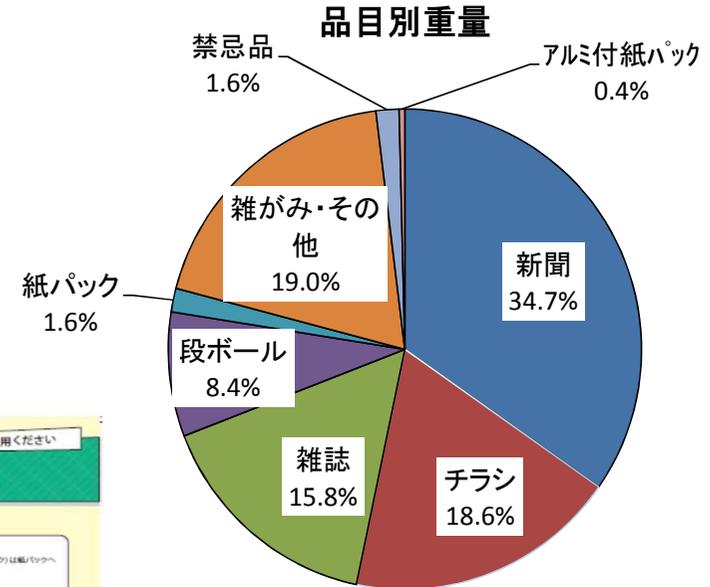


雑がみ回収社会実験ふまえた情報提供(2013~)

家庭から排出される古紙量調査23世帯で1か月間計測(2013.10)



雑がみは紙の 19%も



捨てる前に見直そう! 資源とこみは紙一重

資源となる紙の分別 一覧表

資源となる紙の出し方

新聞: 新聞紙をばらばらにして、資源物へ出してください。*新聞紙はばらばらにしてください。*新聞紙はばらばらにしてください。

紙パック: 袋を破り、紙をばらばらにして、資源物へ出してください。*紙パックは袋ごとに入れてください。*紙パックは袋ごとに入れてください。

段ボール: 段ボールをばらばらにして、資源物へ出してください。*段ボールは袋ごとに入れてください。*段ボールは袋ごとに入れてください。

雑誌: 雑誌をばらばらにして、資源物へ出してください。*雑誌は袋ごとに入れてください。*雑誌は袋ごとに入れてください。

雑がみ

雑がみとは、「新聞」「雑誌」「段ボール」(雑誌)以外の資源となる紙類の総称です。(分装品は裏面に記載してください)

小さな紙類は、資源にならないよう新聞や雑誌に入れてください。

資源 →

配布団体名: 緑の住居 / 連絡先 (電話番号)

冷蔵庫などに貼ってご利用ください

雑がみ 分類表

資源になる紙

トイレットペーパー・ラップの芯、新聞、印刷物、食品・お菓子などの包装紙

パンフレット、ポスター、チラシ、カレンダー、コピー紙、プリント、ノート

紙類・ダイレクトメール・チラシ (ビニール袋の裏面)

メモ帳、付箋、わりばし袋、書中フタの裏面紙

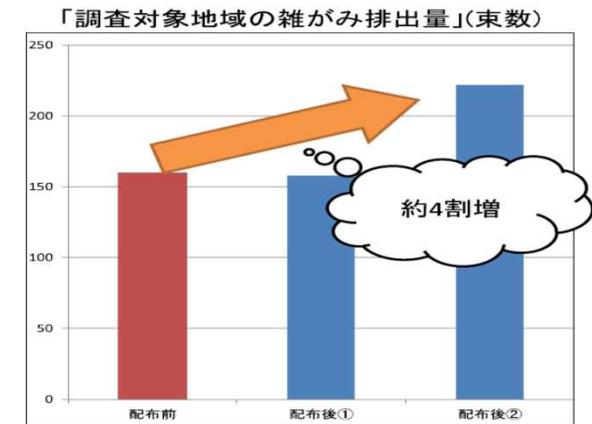
手紙、シール紙に貼った紙

資源にならない紙

おみやげや賞状、封筒、お札、お年賀状、お祝い状、お礼状、お詫言状、お祝い状、お礼状、お詫言状、お祝い状、お礼状、お詫言状

写真、アルバム、圧縮紙、アイロンプリント紙、アルミ付紙パック、新聞紙、お年賀状、お祝い状、お礼状、お詫言状

配布団体名: 緑の住居 / 連絡先 (電話番号)



地域に根ざした情報発信の担い手づくり（2013～） 「さあ！楽しく実践してみましよう」

情報のつなぎ手として、事業者と連携して3R市民リーダー事業を実施。
地域の環境イベント・自治体の3R講座・エコプロダクツ展・
環境学習センター・自治会の会合等で出前講座を実施

<http://www.genki-net.jp/>

出前講座の動画あり



クイズで楽しくリサイクルを学ぶ

2013年11月のセミナー会場でミニ講座をご覧になった方からのご依頼で、東村山市で3R講座が実現。地域の方々対象に、クイズ、寸劇、ゲームで楽しく！市長さん、市職員の方も出席





持続可能な循環型社会に向けて 見えてきた課題

- ①「認知」と「行動」の大きなギャップを埋める
 - ②2R(リデュース・リユース)の社会システム化
 - ③質の高いリサイクルの定着
 - ④的確な情報が社会に届いていない
 - ⑤東京2020のレガシーは「もったいない」の徹底
 - ⑥温暖化対策・自然共生と連携した地域循環圏
 - ⑦アジアのNGOとの経験交流
- おわりに～社会状況の変化への対応



①「認知」と「行動」の大きなギャップを埋める

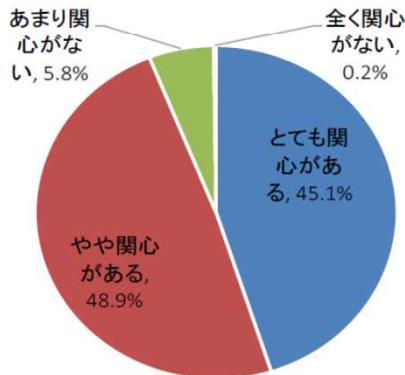
「環境配慮商品と消費行動の調査 結果」

元気ネット実施 2014年10～12月全国466人対象

【Ⅱ. 環境について】

QⅡ-1. 地球温暖化、環境問題に関心がありますか

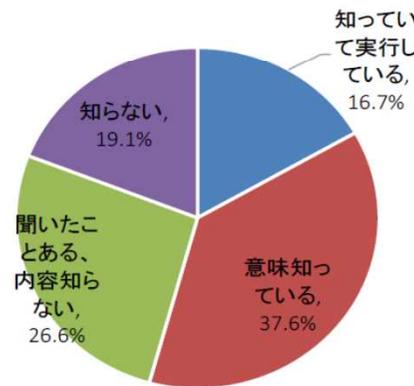
とても関心がある	210	45.1%
やや関心がある	228	48.9%
あまり関心がない	27	5.8%
全く関心がない	1	0.2%



環境に関心がある人は94%もいるけれど

QⅡ-3. グリーン購入（環境にやさしい製品の購入）について知っていますか

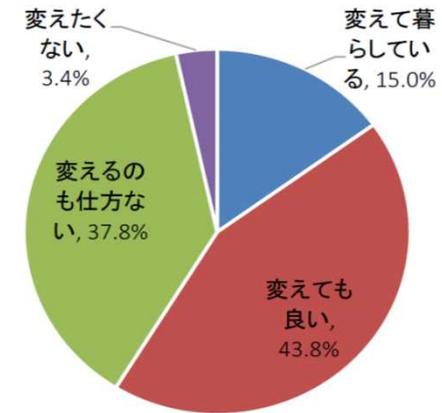
知っていて実行している	78	16.7%
意味知っている	175	37.6%
聞いたことある、内容知らない	124	26.6%
知らない	89	19.1%



環境にやさしい製品の購入を実行している人は16.7%だけ

QⅡ-10. 環境のためになるのであれば、現在のライフスタイルを変えてもよいと思いますか

変えて暮らしている	70	15.0%
変えても良い	204	43.8%
変えるのも仕方ない	176	37.8%
変えたくない	16	3.4%



★「認知」と「行動」のギャップは大きい。

ただし、「環境のためにライフスタイルを変えたくない」人は、たった3.4%。
思い切った対策や社会システムがあれば、「国民の環境行動」は定着する！

②2R(リデュース・リユース)の社会システム化



- ・レジ袋削減、リユース容器・食器、食品ロス削減等の定着



- ・レジ袋の無料配布禁止など、資源を大切に販売の定着に向けて、制度化の検討
- ・公共施設を使用するイベント・店舗等で、使い捨て容器は使わないことを条例化するなど、制度化の検討
- ・飲料、酒類などの地域循環リユースびんの活用
- ・食品ロス削減の目標、及び協力店舗登録制度など、各自治体の取組の共有。



- ・3R行動見える化ツールなど、事業者・自治体・NGOの取組成果の見える化・定量化の推進。情報発信への活用
- ・家庭ごみ有料化など、住民がごみ減量・発生抑制に取り組むきっかけとなる制度導入を徹底

③質の高いリサイクルの定着

- ・資源回収率アップなどすべての資源の効率的活用を社会で実現



- ・自治体回収だけでなく、店頭回収・集団回収など多様な選択肢確保
- ・家電リサイクル法の義務外品の回収の徹底
- ・有害物、化学品、水銀、薬品の回収・再資源化・処理の仕組みづくり
- ・プラなど同一素材の製品・容器包装等の同時回収・再資源化



- ・リサイクル料金の支払い段階など、各種リサイクル法の総合的な分かりやすさに向けて、見直し方針を明確化
- ・連携による効果的仕組みを検討する、多様な主体の協議会づくり



④ごみ減量への的確な情報が社会に届いていない

- ・最終処分場残余の減少、清掃工場建て替え等方針づくりの重要な時期
- ・循環の環を的確につなぎ、ごみ減量を実現するために、技術革新など情報の更新が必要



- ・例えば雑紙の資源化可能なものは増えているが、回収が進まない
- ・食品リサイクルを活用した肉や野菜が身近に戻っても、気づかない



- ・リサイクル資源活用の表示の徹底
- ・3R市民リーダーなど、自治体・企業・NGOの連携した人材育成
- ・NGOなど3R普及に取り組む団体の、次世代育成は喫緊の課題



相模原市にて

⑤東京2020のレガシーは「もったいない」徹底に期待



ロンドン2012の会場
客席を一部撤去し
近隣の橋脚に活用



ロンドン2012の際の
分別ボックス

- ・ 2020年は持続可能性を重視した大規模イベント。世界が注目するショーケースに



- ・ 競技施設、選手村等の建設資材の調達から、使用後のリユース・リサイクル市場での管理徹底
- ・ 大会運営の準備・実施・片付け段階の3R

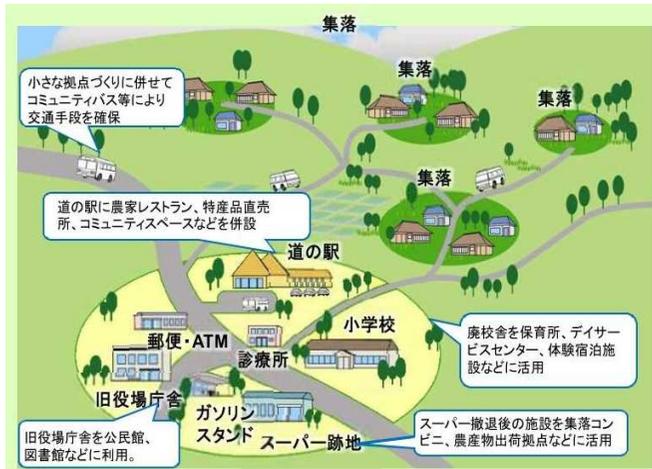


- ・ 携帯や小型家電の回収資源でメダルを作る提案
- ・ リユース食器活用でごみを出さない運営提案も



- ・ 2050年以降の埋め立てごみゼロ社会に向けて
- ・ 分別・表示の統一と社会への定着
- ・ 若年からシニアまで、ボランティアの活用
- ・ 事前研修の広がりによる、3Rの一層の定着。

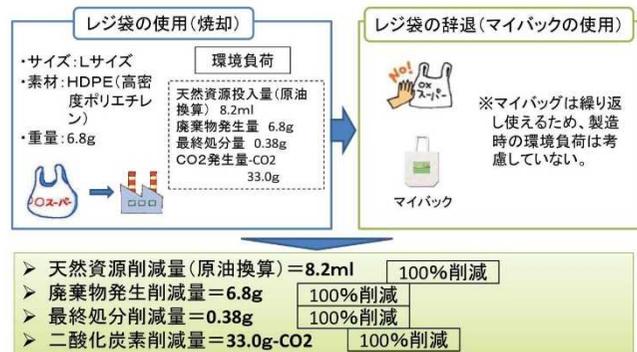
⑥温暖化対策・自然共生と連携した地域循環圏



資料:国土交通省 国土形成計画案より

■レジ袋の辞退

レジ袋の辞退1回当たりの場合の3R効果を試算。



※レジ袋のサイズは、入力者の任意で変更可能

資料:環境省 3R行動見える化ツールより

・地域の個性を活かした循環の環をつなぎ、個性あるまちづくりを

・身近な循環の環をつなぎ、雇用や地域産品作りで、活力ある地域へ

・バイオマス(間伐材・下水汚泥等)、焼却熱など、熱とエネルギーを徹底活用し、エネルギー自立型地域づくり

・森林管理の徹底で、CO2吸収源の確保

・小さな環から大きな環に広がる地域循環圏

・小さな3R行動の資源 & CO2削減効果を、まとめて見える化する「3R行動見える化ツール」の活用

・対流・交流による活力の広がり

⑦アジアのNGOとの経験交流(アジア3R推進市民フォーラム)



2009年、3R実践や普及に関し全国規模のネットワークをもつ日本の約20NGOが呼びかけ合い、東京で「アジア3R推進市民フォーラム」を開催。その後、開催国NGOを中心に経験交流を拡大

環境省と国連機関が呼びかけた政府間会合、「アジア3R推進フォーラム」サイドイベントとして開催(菜の花ネットワーク・持続可能な社会を作る元気ネット・富士山クラブ・中部リサイクル運動市民の会・循環生活研究所)等



- ・ 国内の3R活動NGOのネットワークづくり
- ・ アジア各国の環境NGOとの経験交流(堆肥化・3R学習・バイオマス循環・地域づくり)等
- ・ 国内・アジア含めNGO・自治体・事業者の連携
- ・ 最大の課題は継続的活動の財源基盤の構築

おわりに

今後の循環型社会のあり方を考える際、各主体の連携する「共創」のプラットフォームづくりを重視し、社会状況の変化と、アジアなど世界への広がりを視野に入れ、持続可能な未来をめざしたい

地球温暖化・エネルギー・循環型社会・生物多様性

環境

都市集中・
地域過疎化・
技術の継承

経済

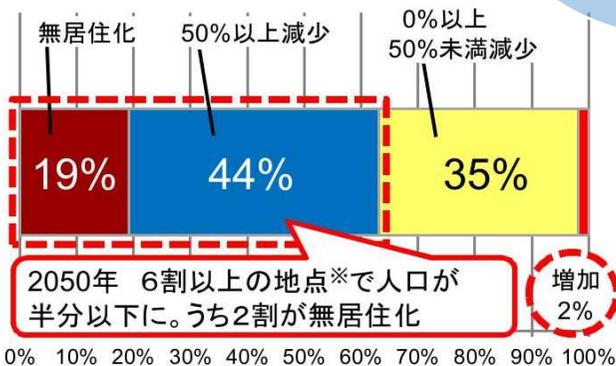
社会

少子化・
異次元の高齢化
2025年に高齢者
30%。50年に40%

文化

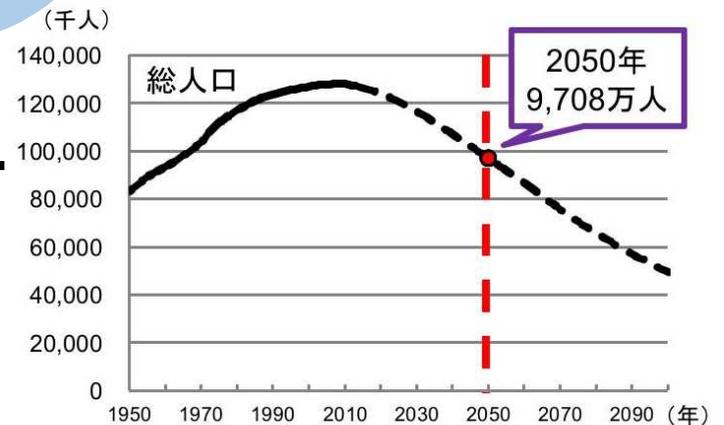
伝統文化への敬意・
国際的な
持続可能性

人口増減割合別の地点数(2010年→2050年)



※ 国土を縦横1kmのメッシュで分割した点。2010年時点では18万メッシュ
(出典)総務省「国勢調査報告」、国土交通省国土政策局推計値により作成

将来推計人口の動向(社人研中位推計)



(出典)国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」の中位推計 16